報　告

2023年8月

NPO法人都市生活コミュニティセンター

小規模多機能型居宅介護事業所パンセ武庫之荘ホーム管理者：池田啓一

2022年度の事業所自己評価の為、小規模多機能居宅介護事業所パンセの職員全員に記入表（尼崎市提供）を配布し、記入してもらいました。（2023年3月）

その概要を次の通り、報告します。

記入表のファーマットを別途添付します。

記入表の大項目は

Ⅰ―理念に基づく運営

Ⅱ―安心と信頼に向けた関係作りと支援

Ⅲ―その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ―その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

小項目は全体で５５項目になっています。

小規模多機能事業所の運営にあたって各職員が気を付けるべき内容が幅広い角度から示され、その実践の状況を各職員が自身で振り返ることになるものと受け止めています。

いくつか特徴的なところをご紹介いたします。

１―当法人事業所ではそれぞれの職員が専門資格を持って職務に当たっており、職員としての経験ということもありますが、基本的なところは理解しており、概ね出来ているあるいはそうしようと努力していると回答しています。

２―上記の関連で申せば、当法人としてあるいは当事業所としての考え方をどこまで浸透できているのかではまだ十分ではないように見受けられることもあります。そこで23年度に入ってからですが、パンセ事業所の理念を実践に活かすとする一覧表を作りました。詳しくは別紙の通りですが、抽象的な言葉である理念を日常の業務場面に落とし込み、それぞれの場面でどんな考え方でケア業務に臨むのかを全ての職員に提示しました。

３―利用者様ごとの状況に応じた丁寧なケア、健康面への配慮などが求められることから職員間の情報連携は重要です。そのために日直制度の運用などしています。パートタイム労働の方も多いため、丁寧な情報連携の仕組み作りが必要であると考え、ケア業務に関わる全ての職員が参加する月次の全体会議を同内容で２回開催することにしました。その結果、概ね全ての職員がこの会議に参加するようになりました。ただし、勤務時間帯が大きく違う夜勤者についてはまだ課題が残っています。

４―職員の介護技術の向上は大事な課題です。コロナ禍にあるため、集合してでの研修の機会を作りにくい状況が続いていますが、ネットを活用した研修の仕組みを導入しました。

実地研修ではオシメ、オムツの当て方の研修を先日実施しました。各職員にとっては従来から知識もあり経験も積んできていることですが、改めて基本に立ち返った研修が出来たと好評でした。１回目が高評価でしたので、２回目も実施されました。

今後は普段利用者様に提供している薬についての基礎知識をテーマにしたもの、そしてベッドから車椅子などへの移乗業務の研修を予定しています。

５―コロナ禍については社会的には規制措置の緩和が進んでいますが、高齢者の皆様をお世話する私どもの事業所では引き続き慎重な運営体制をとっています。そのため、ご家族様の施設への来訪を制限（全面禁止ではありませんが）しています。その点でご家族と接触が取りにくい状況にあります。そこでケアマネジャーや管理者などが利用者様とご家族様とを繋ぐ役目をうまく果たすことが大事と見ています。

以上